

037 左坐骨神経痛（腰椎分離すべり症）

女性 七十七歳

主訴 左臀部～大腿後側～下腿後側痛、しびれ

現症 1ヶ月前より発症。この患者は以前から整形外科で骨粗鬆症、腰椎分離症といわれ、治療を受けていたがあまり芳しくなく、近所の方から聞いて来院する。

所見 脈は「緊数実」、腹はやや張っているが特に圧痛まではない。腰椎は3～5の間が前彎で、すべり症を呈している。ラセーグは80° (+)。

処置 数を打っているので腹から入り、側臥位で「左坐骨処置」。そして座位で「帯脈」をしようとしたら、特に左側の硬化がひどい。「やや後帯脈」を丹念にしていく。

経過 この患者は治りが早く、3回目（8日目）でだいぶ痛みが軽くなってくる。それまで炊事ができなかったが、少しずつできてくる。

4回目（12日目）、炊事が普通にできるようになる。立っていてもしびれが軽いという。お腹の張りはなし。

5回目（15日目）ラセーグが（-）になる。炊事は約1時間できだす。あとは足趾のしびれのみ。このしびれが消失したのは、治療を始めて45日目だった。都合9回治療したが、終始1回も欠かさなかったのが「帯脈」であった。

（「帯脈」の解説→症例038）